２００８

木製椅子の製作

Wooden Chair

AD 10　上今　祐希
指導教員　小西　均

1.研究目的

木製の椅子は古くから多くの物が作られ、様々な工夫が見られる。

本研究では、ウィンザーチェアを参考に木製の椅子のあり方を探り、新しい材料の使用やモダンリビングにあった形を提示し、木製椅子の構造と製作技術を知る事を目的とした。

2.調査と分析

木製椅子を見に行き形が気になった物を選び、ウィンザーチェアを選んだ。また現代で類似した椅子との比較をし、資料から定義付けられている事との事実確認を行った。

ウィンザーチェアの定義は、厚い木製の座面を基盤として、椅子の脚・スピンドル（棒部材）などが直接座面に接合された椅子である。また、他の特徴としてゆるい背もたれ、角度と曲面、棒部材構成によって成立しており、座面のカーブは尻部の形状を基本にしている事が分かった。

現在各種デザイナーが提示する「インテリア」デザインの傾向として、”原点”“エコ”というようなキーワードが感じられ、エコは単に自然に配慮しているという物ではなく、持っている事で自然を考えているという周りの目に向けた物の考え方が感じ取れた。これにより現代の椅子の傾向を再認識する事ができた。

3.コンセプトの立案

- 座りやすさと新しい材料の利用、モダンな形の表現
- ウィンザーチェアに観られる座面、脚部の特徴を活かす。

4.デザイン展開

市販ウィンザーチェアのコピー商品を解体して細かい寸法を計測して設計の参考にした。

材料は従来の椅子では使用されていなかったものを選んだ。

座面と背もたれにはパイン材の集成材を、背もたれ、脚部の丸棒部材はラミンを使用した。

脚部を３本で構成する事で、見た目の真新しさを押し出し、合理的な構成を可能にした。

３本足にした理由はモダンというのも大きいが今までに無い脚部構成を狙ったものであり、ウィンザーチェアの特徴を残しつつ設計することを試みた。

３本足で座面は広いので斜め方向に力が入ると不安定になるため後足にはT字になるよう部材を作ることで安定をさせた。

全体の大きさは座面が通常の椅子より幅があり、印象は強くなるが、背丈は低めにすることでインテリアの広がりを感じるよう考えた。また、背もたれの位置と座面角度で姿勢が正しく保たれるように配慮した。

5.完成図

6.結論

友人や事務の方に協力してもらい見た目と座ったときの感想を聞いて検証をした。

３本足という事もあり「座るのが怖い」という意見が多かったが、中には「カッコイイ」や「見た目が面白い」等の声も聞けた。

座ってみての感想は「座ってみて怖い印象が消えた」や「体重を掛けても平気なのに驚いた」等の声もあった。背面に対しても「傾斜が付いてて姿勢が保たれる」や「姿勢が良くなりそう」等の声もあったが、中には「背面のRは良いがもう少し角度がし欲しい」や「横に長い」等の意見もあった。

「モダン」な表現については、そう感じたかの問いには半々であった。しかし、違うという答えを出した人の中にも新しいや珍しい等の答えも聞け、表現としてはおおよそ、成功したと思っている。

7.参考文献

家具制作鯛工房
http://www.tai-workshop.com/index.html
手作り家具,姫島正和家具製作所
http://www13.ocn.ne.jp/~kaguhime/index.html